

## 追加資料：「ヨハネ黙示録の神学」 24.1.24

### 1 ヨハネ黙示録を読む

#### ヨハネ黙示録とは

イエス・キリストの啓示について語られている。これは父なる神がキリストに与えたもので、啓示の連鎖を通じて神の僕たちに届く。つまり、神—キリスト—天使—ヨハネ（編集者）、神の僕たちである。「啓示」あるいは「黙示」という言葉の示すところによれば、この書物は古代ユダヤ教とキリスト教文学中、「黙示」という文学形式に属する。しかし、1:3によれば、この黙示録はキリスト教典礼で朗読される預言として意図されている。また、明らかに書簡として意図されている。つまり、初期キリスト教の書簡形式である。しかも、七教会に宛てた「回覧書簡」という形式の黙示的預言と言えよう。

#### キリスト教預言としてのヨハネ黙示録

黙示録の編集者は、ユダヤ人キリスト教預言者だった。しかも、属州アジアにあった諸教会の預言者集団の一人であった。

また、この書かれた預言を典礼において朗読することは、初代教会では通常、預言者たちが典礼で神から授かった託宣を会衆に伝えた。

#### 黙示としてのヨハネ黙示録

「黙示」とは物語の形式の啓示文学と言えよう。その中で、異界の存在者によって啓示が人間である受け手に取り次がれて、超越的な現実が明らかにされる。その現実は、終末論的な救済をもくろんでいるという点では時間的なものであり、超自然的な別世界にかかわっているという点では空間的なものである。

#### 回覧書簡としてのヨハネ黙示録

この黙示録全体が、エフェソ、スミルナ、ベルガモン、ティアティラ、サルデイス、フィラデルフィア、ラオディキアという特定の七つの教会に宛てられた一通の回覧書簡である。

文学類型としての書簡の特質は、男性ないし女性の著者が、執筆相手を測定し、限定した状況に合わせて書くことを可能にする。

回覧書簡は、単一集団の受取人に宛てた書簡ほどに特定のなものとはならない。

#### イメージ表現を理解する

ヨハネ黙示録における異常なほどあふれる視覚的イメージ表現と、その読者

たちが内部に入り込み、それによって自分たちの生きている世界の認識が帰られてしまう象徴世界を創造する能力である。つまり、アジア州の諸大都市の黙示録の読者たちの世界についてのローマ的なヴィジョンの強烈なイメージと絶えず向き合わされていた。

とにかく、ヨハネ黙示録のイメージは、想像の中でこの書物の象徴世界に参加するように誘う喚起力を伴う象徴であることは明らかである。

## 2 今おられ、かつておられ、やがて来られる方

ヨハネ黙示録の神学は、あくまでも神を中心としている。

### 神的存在の三位一体

ヨハネは、三通りの言い回しで神的存在を表現する。

今おられ、かつておられ、やがて来られる方から、

また、玉座の前におられる七つの霊から、

また、誠実な証人、死者たちの中から最初に復活して方、そして地上の王たちの支配者であられるイエス・キリストから

恵みと平安があなた方にあるように。(1:4b-5a)

これらの言い回しは、書簡の書き出しの形式の定型部である。

初期キリスト教書簡の中でもヨハネのものがユニークであるのは、その標準的な挨拶の形式に「三位一体」の性格を与えている点である。

### アルファでありオメガ

ヨハネ黙示録のプロローグは、神の自己宣言で終わる。

神である主、今おられ、かつておられ、やがて来られる方、全能者はこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである (1:8)。」

しかし、神によるこれら二つに自己宣言は、イエス・キリストによる二つの自己宣言を対応していて、その図案は以下のようなものである。

神 私はアルファであり、オメガである (1:8)

キリスト わたしが最初の者にして、最後の者である」(1:17)

神 私はアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである (21:6)。

キリスト わたしはアルファであり、オメガである。最初の者にして、最後の者、初めであり、終わりである (22:13)